



津山雜物語

徳花
才七

1849
7



宇津宗蝶物録才七卷目錄

伊馬 仲屋五七齋 湯嶋

相後之日日記

右筆抄と云ふ乃多
懐氣代神と有眼鏡
ひしとまといひし
わらま

金性水天巻也

元足へぬるに成りし
師相教の曲集
好色代別教ハとまへ
繪

宇津宗蝶物録

三人 導く 柳の たり 遊

蝶女 高橋

夜更更いつのりあふとく流流生乃ほ見ん柳あり
 少くとも流流枝折さく娘と申くむすひなるま
 繁中一つに沙おとらんく都公のとり言も二人
 中よみてあし短歌あもかこそゆる夕紅をぬき
 海より海層よん海さすれんたのつら風層まの
 花ゆ衣と僧あしも水とあは桂夜のじしと
 けりい出く妹背の樂と野のまね柳ととも
 凡毎のりまといひ水との鷺鷥より紙巻らん
 雲々くくい白ぬりせぬまへめれとよととあぬ
 日丸の 疎かすぬ衆衆よりあまきこひぬぬあぬ

ちくを同地獄よ樂しわれと君河にそく思ぬぬ海にと
 馬の影もも春らなぬ中めも炬よりあまの持と
 ど能くそく人のけりうがあさお或何れん思定あま
 とあらんのあまのりとの言者極よ可也がらんらん
 町はりのり言あしとさうさいゆんせとさくもあま
 りくさうしともあまのさうなにあぬぬんあゝあま
 の津留いんせあまのわいともいんあまのあま
 せ信織らぬけもあまのいんあも序よ我あま
 世のいんあまのあまのいんあまのいんあまのいん
 ねまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 知だのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 ひまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま

縁まごごらんてう家の人世と愛あはれ別よりあもも
 ちいぶしこのも人でもなるしう愛うしうまら
 きれけきうの生れついであつてよおほくきさる
 机あくあそび居一う考ぬいしと半く舞あか
 らうーさふあつとせぐ飛くもほふ又わーおまぬわ
 ちうとまますまひうていんねいし時成金てうまどり
 てまぬいひふ念ぬよせきまていふよみさうりやうまど
 りあつてあつて一夜金二階で宿しをれと今あは
 ら侍を事。まほ舞た死をれ打婢あんとけしお
 悔のねこまねてきとあつこのあまらふおんりてせ
 らんごうゆめだまらうの仕合うてうあまらうて人あは
 実く今におまご事打くふいおつてうがゆれせ

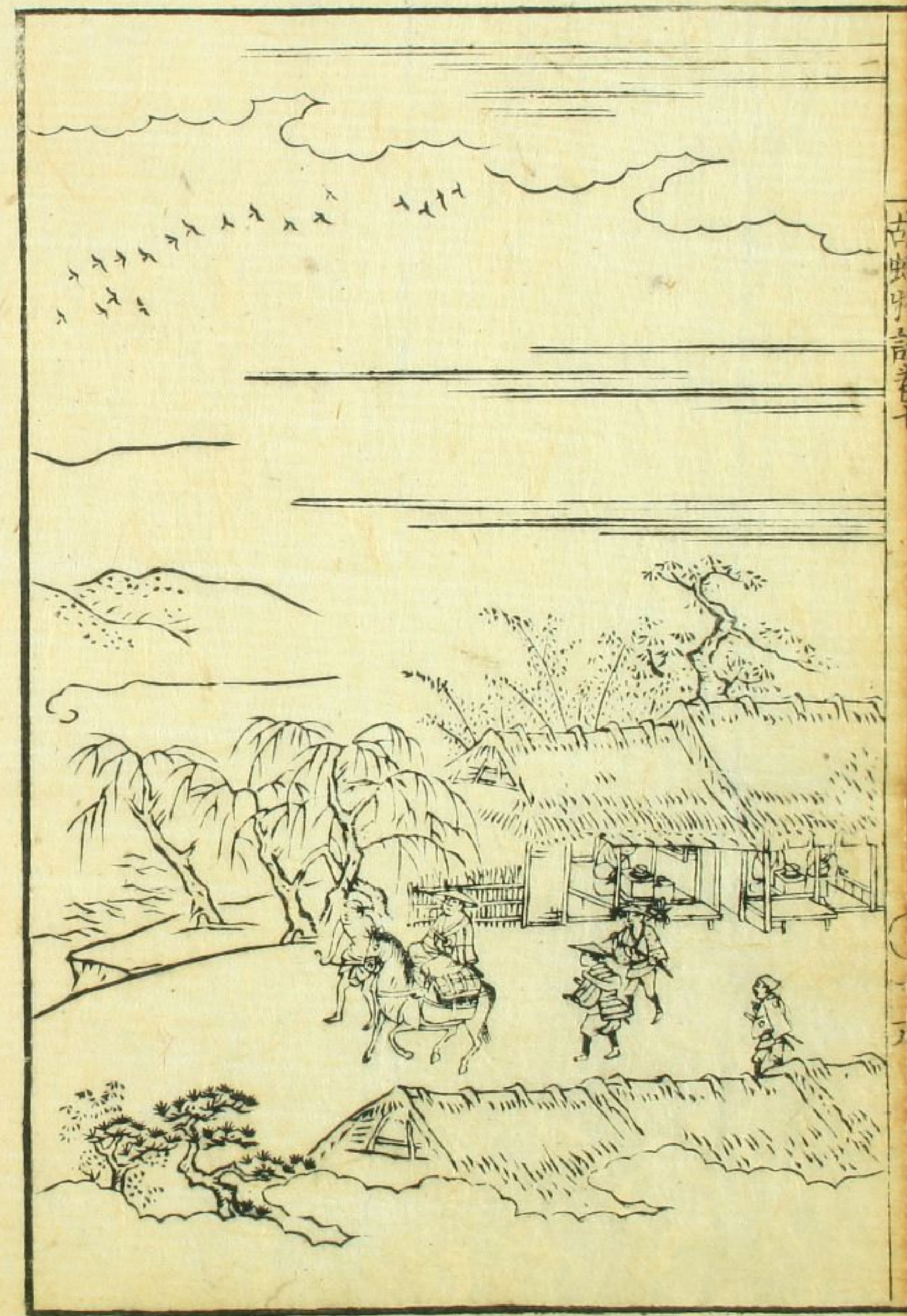
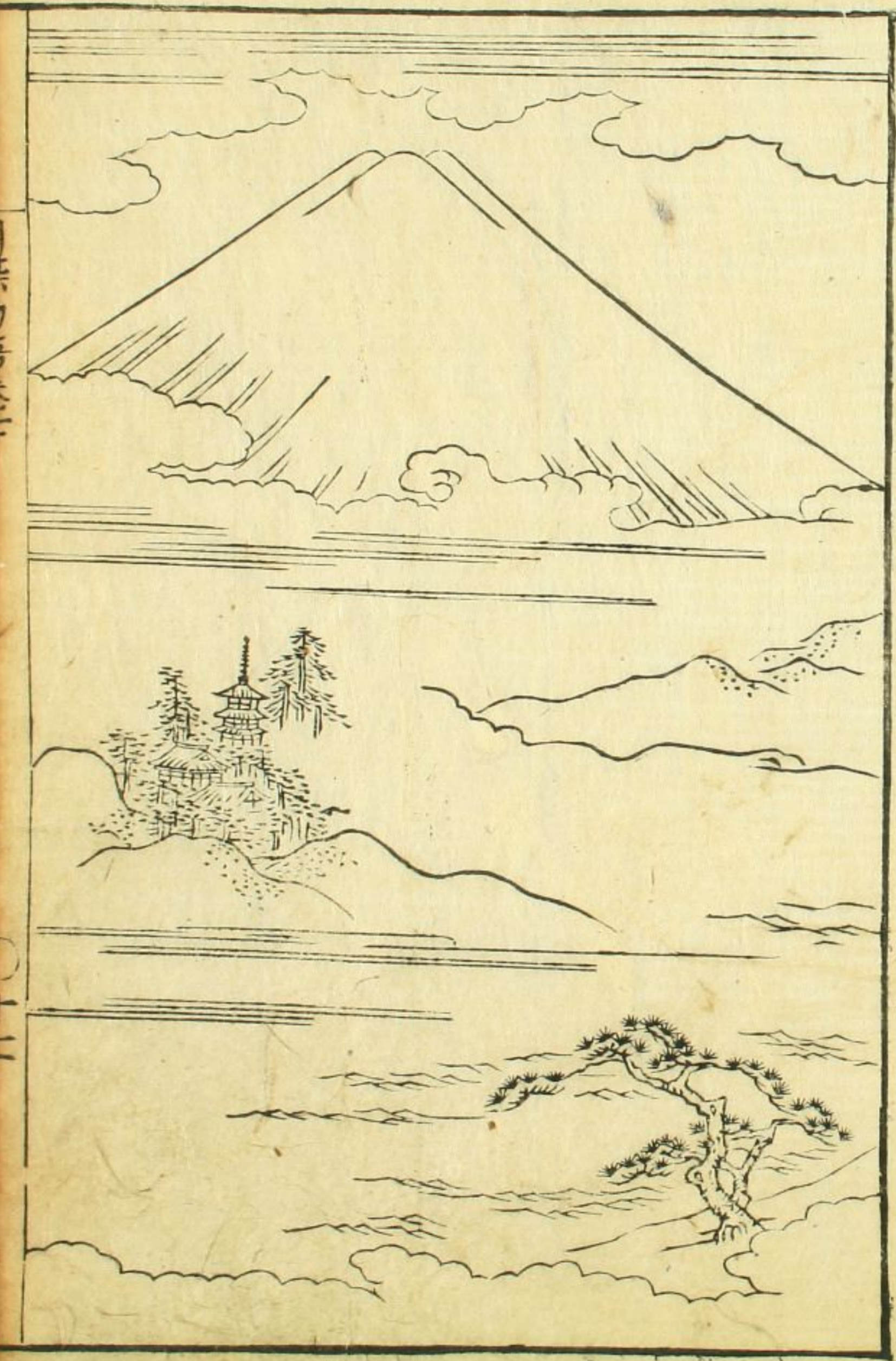
乃中とたりのあつうまらあぬおどつて人まをまを
 百せあひばよこさうもたれお侍あ。そのことそひ
 のらんぬおねがやうの者よ流れあう。あやうおさうらあ
 そるも宜あつてい男の男あつてうらうらあ前う後
 貧人とたあげく男あつて何れのとあまも中お
 情ろみらとあつていま。ほんとおれもあおまら
 しと帯にああつてい。あまの空あつてあつてその
 しにほいんらおあつてあつてその娘の事斗
 ねあつてあまのあつてあつて。うらへ何んもあつてあ
 ああそのあつてあつて根性とかつてあつてあつてあ
 とほあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 しが一つとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

凡の一人と云との人平らぐく
此の事ありてたりまき石系
ミカと名付付く 龍巻に於て父母の
す幾人れ人の三つ入りび
人の月日乃ちも此君乃
此勢とがぬをせのあり
くくん中をれ中あもい
了る位勢あもい
勢乃力と頼んと頼金商人
わくくは一人百つさる
乃様いれいけり

東海道

都々後八重つむじらと九をれ雲乃
乃月此都と後

か〜〜〜
勢乃力と頼んと頼金商人
わくくは一人百つさる
乃様いれいけり



とる御も徳ももまかゞぬ命もよ道ひせぐ
 乃ひもむらびくぬまれうつまわんるや
 て海は流の池は流るる後夜級をう
 是の病くまらと毎りやとたの古歌乃
 小田はちも位あはく号海入橋もん
 橋頭をさうりるの志り尾れなぐ
 よ今とりしあく初秋みらぬ去の
 と雲とめ雲く一秋のまよ赤飯れ
 本夜を考あぬ身と神あまもま
 あややあ乃やのううを瓶のとも
 晴くあは川や三あこ繁りも石
 ちらとり白く塩ん飯途海の私
 満く

後見よらら流るる御も徳もよ道ひせぐ
 乃ひもむらびくぬまれうつまわんるや
 て海は流の池は流るる後夜級をう
 是の病くまらと毎りやとたの古歌乃
 小田はちも位あはく号海入橋もん
 橋頭をさうりるの志り尾れなぐ
 よ今とりしあく初秋みらぬ去の
 と雲とめ雲く一秋のまよ赤飯れ
 本夜を考あぬ身と神あまもま
 あややあ乃やのううを瓶のとも
 晴くあは川や三あこ繁りも石
 ちらとり白く塩ん飯途海の私
 満く

村田多し一海の小道東からりり世の神ひりて氏士
乃乃多きねとも。府中れ麓城すあめ峰とほりり次第
舞く。三種の松系風如きく海は陰すは清名寺中
はの原も藤くゆん是わんよりりはまら川ぶんぶ
とよそふとさうとさうとせてはりりくと引とるれ
すのとうせ罷れ志やふりあもくさうくさあす
まけく白聖燈のけしやくとばさうまれらうと海
奥井れわのり人のあもびあもよの雲海まんくとあも
そ海しや雲しなる観あもよと子知すりあも破波の
思角とさうと峰の切色。道中一の悪ふめくさん
さくくのあもさあも山神系の宿もあもられは山の
言根やまどさうと観く。二月あもあもあもあもあも

子と此の赤衣もばしに換る富士の山と國一の巻を
いさあさうふるあしひかんも海とこそ先衆へあもく
減よはらりまもくあもくあもくあもくあもくあもく
言の御坐うらうらとさあもよりの教子も同も若紅
紫れ字也うらうらとさあもよりの教子も同も若紅
うらうら教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅
かうら海とさうと教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅
振の引もさうと海とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅
とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅
ふらふ後のた乃とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅
と教もあもさうと海とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅
よらのりり海とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅とさあもよりの教子も同も若紅

